

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170300489		
法人名	特定非営利活動法人 菜々の会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	佐賀県鳥栖市儀徳町2907-1		
自己評価作成日	令和3年11月22日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年12月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日々の生活を穏やかに過ごして頂けるような関わりを大切にしています。拘束ゼロ、施設は行わず、なるべく制止しない関わり方に努めています。又、バランスの取れた食事提供に努めます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

県東部の住宅地に位置し、系列の介護サービス事業所等が併設されている。開設されてから長く、地域からの認知度も高いホームである。地域内の高齢化が進むと同時に、住民の入れ替わりも多く、新たな地域づくりが地域の課題ともなっている。ホームは、地域の老人会やサロン・地域行事へも積極的に参加し、ホーム行事に地区役員や住民を招く等相互の交流が図られていたが、コロナ感染症の影響でここ2年程交流もできない状況である。その中でも、入居者が安心して楽しみをもって生活できるよう、日々入居者本位のケアに取り組まれている。職員間の関係も良く、お互いを信頼しあいながら、ホームの理念の実現を目指したケアに取り組み、その関係性の良さが入居者や家族の安心にも繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼・申し送り時、理念を唱和している。	理念は、朝礼や申し送り時に毎日唱和されている。確認し意識化する事を大切にし、職員の勤務歴も長く、日々のケアの中に浸透している。また、理念はリビング内の誰もが目に付く所に掲示もされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の行事に参加し、交流に努めていたが、今年は、コロナ禍の為交流は中止している。	地域内の高齢化が進み、住民同士の関りが地域の課題ともなっている。ホームはそのような環境の中で、老人会やサロンがあれば地域へ出向き、ホームの七夕会やクリスマス会等の行事に住民を招く等交流に努められている。ただ、コロナの影響で、それらの交流が中止となっている状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な事はしていない。 認知症は特別な事では無い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況を報告し、皆様の意見ををサービス向上に活かしている。(コロナ禍の為、文書のみ開催になっている。)	コロナ感染症の対策のため、現在運営推進会議は文書で実施されている。事前に文書を送る等し、委員からの意見聴取にも努められている。コロナの影響もあり、家族へは呼びかけはされていない状況である。	家族とは日々の関り、面談等で聞き取りは行われているが、運営推進会議への呼びかけはない。家族も重要な会議のメンバーとして参加を促し、報告書は全体で共有する取り組みの工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々の疑問は、指導を受けている。	疑問に思う事、尋ねたい事等は、積極的に市の担当者、保険者と連絡を取る等し、日頃から良好な関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前向きに捉えている。	ホームの勉強会、研修で、「身体拘束とは何か、身体拘束がもたらす弊害」等について、職員全体で正しく理解する機会を設けられている。気になる事があればその都度注意しあい、玄関の施錠を含め、拘束をしないケアの実践に日々努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に、話し合いを実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の時、説明している。又、不安等には誠意をもって説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎朝、申し送りの時、意見があれば伝えている。	面会時や定期及び随時の家族への連絡時に、生活状況の報告を行うと共に、できるだけ家族の思いや希望を聞くよう努められている。聞き取った意見や希望は、毎日の申し送り時や申し送りノートを利用し職員全体で共有され、日々のケアに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じてやっている。	毎月の定例会、日々の朝礼や申し送り時に気づいた事は、提案できる場を設けられている。運営に反映できるものは、その都度取入れられている。また、代表者は日頃から職員の中に入り、話を聞くよう努められ、個別の相談にも随時対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていく事を進めている	実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との関わりは難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様や医療機関等から得た情報をスタッフ同士が共有し、支援にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気を付ける事を尋ね、前向きで良いコミュニケーションを取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の関係を見極め、ご家族様の希望・意向を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々なお手伝いをして頂いたり、行事等を通して、お話を聞いたりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望・意向をお尋ねして、ご本人様の支援に反映している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。今年もコロナ禍の為ご家族様のみでの短時間での距離を置いた面会のみで、ご家族様以外は、お断りしている。	馴染みの美容院の利用継続、年賀状の手助け等、コロナ禍でもできる範囲で取り組まれている。家族へも、日帰りの帰宅や外出の声かけをする等、関係が途切れないような支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝レクや行事そしてお手伝いを一緒にして頂き、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は、やっていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを繰り返す事で、支援計画に反映するようにしている。そして、ご本人様やご家族様の意向・想いが取り入れられるように実施している。	日頃の関りの中で、本人の言葉、表情を受け止め、できるだけ本人本位の支援ができるよう努められている。時には本人の思いに寄り添い、家族へ本人の思いを代弁されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々に合った暮らしぶりが日々出来るように、朝礼・申し送り・定例会等でスタッフとのコミュニケーションを取りながら、情報交換・共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々・定期的に管理者を含めスタッフ全員が計画に沿った支援を行うなかで、朝礼・申し送り・定例会により状態・状況を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様や主治医の要望や意見を取り入れながら、モニタリング・担当者会議を実施してその方らしい生き方や生活が出来よう計画作成にあたっている。	面会時やモニタリング送付時に、家族からの意見や希望を聞き取る工夫をされている。本人、家族、主治医、職員等の要望や意見をふまえ計画が作成されている。定期、随時の見直しも適切に実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録や日々の観察から気づきを朝礼・申し送り・定例会で情報交換・共有する事で、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態・状況に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している	コロナ禍により地域の方々との交流は出来ない状態。推進委員会で情報・意見交換実施している。ご家族様との繋がりは、維持している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を優先している。ご本人様・ご家族様の意向をお聞きして対応している。	元々のかかりつけ医や協力医療機関において、適切な受診が行われている。専門医受診は家族対応であるが、対応が難しい場合はホームで対応もされている。受診情報は適切に管理され、共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察から状態変化を看護師・職員に連絡・申し送り行い、主治医との繋がりを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院スタッフ・施設スタッフ・ケアマネと情報交換を密に行い、入退院がスムーズに行えるよう信頼関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできる事を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っている。入居時、ご家族様に説明を行っている。看護師の夜間勤務等内部の体制も出来ている。	入居時に、重度化した場合のホームの指針が説明され、同意も取られている。希望があれば、ホームでの看取りにも対応されている。家族の意向を確認しながら、主治医をまじえ、チームで情報を共有し、訪問看護等とも連携を図りながら支援できる体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一般的な救急に対して研修を設け、対応の仕方を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、年2回の避難訓練・夜間対応避難訓練を地域役員や近隣の方々の協力を仰いで行っていたが、今年はコロナ禍の為実施してない。定例会等にて避難場所・経路等の確認をスタッフ全員で確認している。	感染症対策のため、地区役員を含めた避難訓練等は実施できない状況である。消防点検等を利用し、避難場所や避難経路の確認を行い、水を含めた食料の備蓄はできている。地震、停電等緊急時の対応についても、日頃からの意識付けを行っていく事が求められる。	火災以外の災害への対応について職員間での情報共有や、夜勤者を含めた避難訓練の実施が望まれる。また、地震時の室内の安全対策等も、今後へ向け具体的な対策を取られることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、関わりを大切にしている。	入居者一人ひとりを人生の先輩として敬い、尊厳を損ねないような対応に努められている。気になる対応があればその都度注意しあい、定例会で全体共有されている。書類や記録物等の個人情報についても、事務所内で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、ご本人様に選択できるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のリズム・ペースに合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむ事のできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理等をお願いしたり、テーブル拭きや皆さんの手指消毒をお願いしている。	野菜の下ごしらえ、テーブル拭き等、食事の一連の流れの中で、入居者の能力に応じた出番を作り、一緒に食事を楽しむ事ができるよう工夫されている。クリスマスや誕生会等の行事食も含め、3食ともホームで調理され、その匂いや音も入居者の楽しみ一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録し、主治医とも連携し、体調管理をやっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人職員が付き添い食後の歯磨きを行っている。必要に応じて歯科医に指導頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握・チェックしている。	排泄表で入居者の排泄パターンを把握し、排泄の間隔を見ながらトイレへの誘導が行われている。夜間も同様の支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による指導を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむ事ができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、基本的に入浴日は変更なし。声掛け・会話をしながら入浴して頂いている。	最低でも週2回は入浴を楽しむ事ができるよう支援されている。職員と1対1で、ゆっくり会話を楽しむ時間となっている。状況や希望に応じて、入浴の時間や曜日の変更、入浴の追加希望にも柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の常態を見ながら午前・午後共、自室にて休憩を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導を受け、個別の管理をしている。服薬時は、スタッフ同士氏名・日にちの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の状態・能力に応じてお手伝いをお願いしている。(テーブル拭き・洗濯物たたみ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様に合った支援をしている。今年は、コロナ禍にて施設周辺の散歩程度。	コロナ禍の影響で外出の機会は減っている。ホームのテラスでお茶、周辺の散歩、受診時の家族との外出支援等できる範囲で取り組まれている。個別の対応で、馴染みの美容院への支援等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使う事の支援 職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預り金はしてない。必要時は、ご家族様をお願いしてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不愉快な匂いがしないように努めている。	リビングは明るく、花や壁飾り等季節を感じる空間づくりを工夫されている。気になる音やにおいもなく、思い思いの場で、日中居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々、席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が望まれるようにしている。	パッチワークの作品、家族の写真を飾る等、入居者が安心して落ち着いて過ごせるよう、それぞれの好み、生活スタイルに沿った居室環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できる事」「わかる事」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動よりリハビリが出来るように努めている。		